

知床連山地区における取組の進行状況

トピック

1. 平成 18 年以降利用できなかった硫黄山登山口が、道路特例使用制度の試行により 6 年ぶりに利用が再開された。平成 23 年 6 月 25 日から 8 月 25 日までの 62 日間に 635 人の登山者が利用した。(再掲：資料 2-2)
2. 羅臼岳登山道の保全修復と維持管理に関する検討を行う羅臼岳登山道保全修復懇談会及び技術講習会を平成 23 年 10 月 20 日、21 日に実施した。
3. 羅臼岳登山道での仮設携帯トイレブース設置試験を平成 23 年 7 月 15 日から 8 月 18 日までの 35 日間で実施。平成 21 年～23 年の 3 カ年の試験で本格運用に向けた検討を行った。

1. 硫黄山登山口利用の再開（再掲：資料 2-2）

- ・落石の恐れがあることから平成18年より通行止めになっていた道道知床公園線カムイワッカ～硫黄山登山口間について、平成 23 年度より試行として道路特例使用承認申請書を事前に提出した登山者の通行が 6 年ぶりに可能となった(平成 23 年度の道路特例使用制度期間は平成 23 年 6 月 25 日から 8 月 25 日までの 62 日間)。
- ・期間中、落石等の問題もなく、328 件の申請があり、635 人(10.2 人/日)の登山者の利用があった。うち、知床連山縦走者が 288 人、硫黄山登山者が 347 人であった。
- ・平成 24 年は引き続き試行として、前年度より道路特例使用制度の期間を 1 ヶ月延長し、6 月 23 日から 9 月 23 日まで 93 日間で予定されている。

2. 羅臼岳登山道保全修復懇談会及び技術講習会

- ・平成 22 年度より羅臼岳登山道の保全修復手法の検討や管理体制構築に向けた意見交換を行うと共に、維持管理手法としての石組施工についての技術講習会を開催している(事務局：釧路自然環境事務所)。
- ・平成 23 年度は、10 月 20 日に懇談会を開催し、(株)西日本科学技術研究所の福留修文氏、北海道大学大学院の愛甲哲也准教授から道内・国内の登山道管理技術と人材育成、登山道管理体制等について情報提供をいただき、羅臼岳登山道における登山道の管理体制構築に向け課題の確認と意見交換を行った。
- ・10 月 21 日に羅臼岳登山道岩尾別登山口において、(株)北都エンジニアリング漆原修氏を講師に、石組みを利用した近自然型工法の技術講習会を実施した。
- ・羅臼岳登山道岩尾別コースの保全修復事業を平成 24 年度から 5 か年計画で実施する予定。

3. 羅臼岳登山道への携帯トイレブースの設置

- ・羅臼岳では平成 20 年度より関係機関が連携して携帯トイレの利用促進を行っており、平成 21 年度よりテント型の仮設式携帯トイレブースを登山道沿いに設置し、携帯トイレシステム導入に向けた利用者数の把握や、使用感などのヒアリング及び維持管理の作業量・仮設携帯 TB の利用状況把握等の調査を実施している。
- ・平成 23 年度は平成 23 年 7 月 15 日から 8 月 18 日までの 35 日間、仮設式携帯トイレブースの設置試験を行った。期間中 198 名がブースを利用した。アンケート結果では携帯トイレカートリッジの持参率や携帯トイレ使用率はこの 3 年間横ばいで有り、普及に向けた取組が必要とされている。

- ・平成 24 年度に羅臼岳登山道銀冷水に 2 基の固定式携帯トイレブースを設置する予定。携帯トイレシステムの本格運営に向けて関係行政機関や関係団体間での管理体制構築に向けた準備を行っている。

4. 知床連山二つ池における今後の対応

- ・知床連山におけるキャンプサイトである二つ池には、知床半島高山帯の全体の中でも数少ない湿原が分布しており、湿原の植物の生息地として極めて希少である。知床世界自然遺産地域科学委員会委員等により、登山道の複線化による植生の荒廃とルート変更等の対策の必要性が指摘されてきた。
- ・平成 24 年度は現地調査を実施したうえで、小規模なルートの変更を実施することを検討している。キャンプサイトやフードロッカーの位置は変更せず、複線化した湿原域を通過する箇所をハイマツ帯に変更することを想定。ルートは植生の専門家および地元関係団体の意見も踏まえて決定する。